

「 日常を壊す土砂災害 」

千葉県 大網白里市立大網中学校 3年 ^{ながさき}長崎 ^{めい}芽衣

2019年10月25日、台風21号は千葉県を中心に被害を出した豪雨災害です。

私の家は、この台風によって裏山が崩れ、家の半分が埋まる土砂災害が起きました。そのとき、私は小学校4年生で、学校で授業を受けていました。放課後は、避難所になっている小学校の体育館で、一晩過ごしました。祖母は、家にいて、突然「ゴォー」と大きな音がし、急いで外に出たら山が崩れ、家の中まで土砂が入りこみ、間一髪だったそうです。私たちだけでなく、近所の家も裏山が崩れ、家が壊れたり、浸水被害になったりと、大きな被害がありました。崩れたのが平日の日中で、みんな起きていて、家にいる人が少なかったためか、死者が出なかったのは不幸中の幸いだったと思います。もし、普通に家に帰っていて、夜、寝ているときに崩れていたら、家族みんな死んでいたと思います。

翌日、家に戻り、家の中まで土砂が入っていて、雨戸を開けたときに、水がどぼどぼ出てきたときは言葉にならず、現実には起こったとは思えなかったです。木々が生い茂っていた山もほとんど崩れ、母屋の隣にあった車庫や農機具倉庫、その中にあったものもすべて潰れました。また、母屋の1階は、土砂で50センチも埋まり、台所にあった電化製品はすべて壊れてしまいました。他にも、棚や押入れの下の方にあったものは、水や土砂で埋まってしまいました。

雨の次の日から、家族みんなで少しずつ家の中のものを出したり、使えるもの、使えないものを判別したり、片付けをしていきました。その後、父の職場の人が、重いものを運んでくれたり、ご飯を作ってくれたり手伝いに来てくれました。また、他にも親戚の家に泊まらせてもらったり、知り合いの人から着なくなった服の寄付をしてもらったりなど、いろいろな人からの援助を受けました。このような周りの人の力はとても大きく、被災した人にとってすごくありがたいことであることがわかりました。

災害を実際に経験するまで、土砂災害などはニュースでしか見たことがなかったため、どこか他人事のように思っていました。また、豪雨などの気象情報でも警戒レベルをあまり気にしていませんでした。しかし、命を守るために警戒レベルなどの情報はとても重要だと思いました。土砂災害は豪雨だけでなく、地震によっても起きます。すでに今年も、能登半島の大きな地震や線状降水帯などの大雨によって、全国各地で土砂災害が起き、死者も出ています。これからの時代、災害が起きないことは考えられません。災害と共存することは必要不可欠です。今までの経験から、他人事にするのではなく、いつ自分たちの身に起きても対応できるように、ハザードマップで避難所や避難経路、土砂災害警戒区域を確認し、家族で共有しておくこと、高齢者や妊婦さんなどすぐに動けない人がいる場合、土砂災害が起きる可能性が高い場所にいる場合などは、早めに注意報が出ている時点で、その場から離れて、近づかないことが重要だと思いました。

またさらに、2019年の大雨によって崩れた近所の山が昨年の9月、大雨によって再び崩れ、近隣の田んぼにまで流れました。このような、農作物などの周りの被害への対応も考えなければいけないと思いました。

万が一、災害が起きた場合、募金や寄付などの周りの助け合いが必要だと思います。しかし、対策や災害後の片づけ、処理など、自分たちでできることにも限りがあります。そのため、県や国の普段からの対策や援助など協力も必要だと思います。

異常気象による大雨が多く、地震大国である日本は、これからもいろいろな災害が起きると思います。土砂災害に限らず自然災害は、一瞬で今までの生活を壊します。土砂災害の根本を防ぐ対策はありません。そのため、起きたときに自分の命、大切な人たちの命を守れるよう、できる対策をしていきたいです。